

令和6年度
経営報告書(案)

社会福祉法人 博仁会

令和 6 年度経営報告書目次

令和 6 年度の法人事業運営について	1
1. 法人運営	
1) 役員会・評議員会運営	2
2) 法人監査実施表	3
2. 施設・事業所経営	
1) 施設・事業所の概要	4
2) 統合経営に係る実施事項	4
3. ボランティア活動状況	6
4. 施設・事業所サービス提供内容	
1) 養護老人ホーム 愛仁ホーム	7
2) 介護老人福祉施設 和楽ホーム	16
3) 博仁会ショートステイあおぞら	23
4) 博仁会デイサービスセンターさざなみ	24
5) 博仁会ケアサポートセンターひまわり	27

令和6年度の法人事業運営について

令和6年度は、新たに策定した「法人中長期経営計画（令和6年度～令和11年度）」に基づき、各施設・事業所に於いて経営計画を策定し、ホーム長・センター長をはじめとする職員一同が一丸となり、目標達成に向けて積極的な活動を展開して参りました。

ご入居者・ご利用者に対する介護・支援サービスの提供は、各施設・事業所の経営計画の目標達成を目指して、安心・安全で質の高い快適なサービス提供に努めて参りました。各種の行事やご家族との交流は、感染症の流行状況を事前に把握し、しっかりとした感染予防対策を行いながら実施して参りました。その結果、前年度よりもさまざまな活動の幅が広がり、ご入居者・ご利用者並びにご家族の皆様には楽しいひと時を提供することができました。

一方でここ数年、食料品をはじめとする様々な物価高騰の影響によるコストの大幅な増加や他産業と比べて低い給与水準である介護職員の人手不足等の影響を受けて、施設・事業所では通年に渡りとても厳しい経営環境が続きました。このような状況下に於いても、職員一同は日常業務に一生懸命に取り組んで知恵を出し合いながらアグレッシブ（積極的、意欲的、挑戦的、精力的）な行動に努め、東京都の補助事業を活用したICT化、効率化を促進させるとともにコスト管理の徹底等をしっかりと行うことで乗り越えて参りました。

新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが2類から5類へ移行されて2年が経過しましたが、依然として感染の増減を繰り返す状況が続きました。愛仁ホームと和楽ホームでは、令和6年12月から令和7年3月にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）が発生して大変厳しい状況となりました。ご入居者・ご利用者並びにご家族の皆様にはご迷惑ご心配をお掛けしましたが、ホーム長はじめ職員一同による懸命な努力により収束することができました。今後もしっかりとした感染予防対策を継続して、コロナ禍以前の日常生活に近づけるよう努力を重ねて参る所存でございます。

愛仁ホームと和楽ホームでは、ご入居者・ご利用者により良い生活環境を提供させて頂くため、東京都の補助事業を利用した大規模改修工事を進めているところでございます。東京都の承認を受け、令和7年2月に工事の入札を行いました。残念ながら不調となりました。現在、東京都との再協議が終了し、次の入札に向けて準備を進めております。大規模改修工事は令和8年3月末の完成を目指して進めて参ります。

当会における令和6年度の経営状況は、異常とも言える激しい物価高騰の波を乗り越えて、役員一同による日々の懸命な努力により、法人全体の営業利益を示すサービス活動増減差額は二期連続で黒字にすることができました。次年度も三期連続の黒字を目指して努力して参ります。

令和7年5月17日

社会福祉法人 博仁会
理事長 横川 恵一

令和 6 年度事業報告書

1. 法人運営

1) 理事会・評議員会運営

①理事会

月 日	出席数 (同意数)	審議事項
令和 6 年 5 月 29 日	6 名	<p>議長 横川 恵一 議事録署名人 横川 恵一、小嶋 正、久保 睦江 審議議決事項</p> <p>第 1 号議案 …令和 5 年度経営報告（案）並びに決算報告（案） 議決 …可決承認</p> <p>第 2 号議案 …愛仁ホーム・和楽ホーム大規模改修 議決 …可決承認</p> <p>第 3 号議案 …諸規定の一部改正 議決 …可決承認</p> <p>第 4 号議案 …役員等賠償責任保険契約 議決 …可決承認</p> <p>第 5 号議案 …定時評議員会の招集 議決 …可決承認</p>
令和 6 年 9 月 4 日	6 名	<p>議長 横川 恵一 議事録署名人 横川 恵一、小嶋 正、久保 睦江 審議議決事項</p> <p>第 1 号議案 …愛仁ホーム床面積変更並びに定款変更認可申請 議決 …可決承認</p> <p>第 2 号議案 …愛仁ホーム・和楽ホーム大規模改修補助事業（東京都） 議決 …可決承認</p> <p>第 3 号議案 …法人本部・愛仁ホーム・和楽ホームの第 1 次補正予算並びに積立金の取崩し 議決 …可決承認</p> <p>第 4 号議案 …評議員会の目的である事項の決議の省略 議決 …可決承認</p>
令和 6 年 12 月 18 日	6 名	<p>議長 横川 恵一 議事録署名人 横川 恵一、小嶋 正、久保 睦江 審議議決事項</p> <p>第 1 号議案 …法人本部・愛仁ホーム・和楽ホーム補正予算 議決 …可決承認</p> <p>第 2 号議案 …大規模改修工事の実施に伴う設計事務所の選定並びに契約締結 議決 …可決承認</p> <p>第 3 号議案 …令和 6 年度大規模改修補助事業に係る入札 議決 …可決承認</p> <p>第 4 号議案 …諸規定の一部改正 議決 …可決承認</p> <p>第 5 号議案 …評議員会の目的である事項の決議の省略 議決 …可決承認</p>
令和 7 年 3 月 26 日	6 名	<p>議長 横川 恵一 議事録署名人 横川 恵一、小嶋 正、久保 睦江 審議議決事項</p> <p>第 1 号議案 …法人、和楽ホーム、さざなみ、ひまわりの資金収支補正予算並びに愛仁ホームの資金収支補正予算及び本部会計への繰入れ 議決 …可決承認</p> <p>第 2 号議案 …令和 7 年度経営計画並びに当初予算 議決 …可決承認</p> <p>第 3 号議案 …次期役員（理事・監事）選任候補者 議決 …可決承認</p> <p>第 4 号議案 …諸規定等の一部改正 議決 …可決承認</p> <p>第 5 号議案 …評議員選任・解任委員会の委員選任 議決 …可決承認</p> <p>第 6 号議案 …評議員会の目的である事項の決議の省略 議決 …可決承認</p>

②評議員会

月 日	出席数 (同意数)	審議事項
令和 6 年 6 月 19 日	4 名	議長 宇津木 悦子 議事録署名人 宇津木 悦子、川鍋 良子、油井 大智 報告事項 令和 5 年度事業報告 決議事項 第 1 号議案 …令和 5 年度計算書類・財産目録の承認 議決 …可決承認
令和 6 年 9 月 10 日	6 名	決議の省略により、評議員会の決議があったものとみなされた事項 第 1 号議案 …愛仁ホーム床面積変更並びに定款変更認可申請 議決 …可決承認 第 2 号議案 …愛仁ホーム・和楽ホーム大規模改修補助事業（東京都） 議決 …可決承認 第 3 号議案 …法人本部・愛仁ホーム・和楽ホームの第 1 次補正予算並びに積立金の取崩し 議決 …可決承認
令和 6 年 12 月 24 日	6 名	決議の省略により、評議員会の決議があったものとみなされた事項 第 1 号議案 …法人本部・愛仁ホーム・和楽ホーム補正予算 議決 …可決承認
令和 7 年 3 月 30 日	6 名	決議の省略により、評議員会の決議があったものとみなされた事項 第 1 号議案 …法人、和楽ホーム、さざなみ、ひまわりの資金収支補正予算並びに愛仁ホームの資金収支補正予算及び本部会計への繰入れ 議決 …可決承認 第 2 号議案 …令和 7 年度経営計画並びに当初予算 議決 …可決承認

2) 法人監査実施表

月 日	監査結果
令和 6 年 5 月 22 日 小嶋監事 5 月 20 日 久保監事	1) 事業報告等の監査結果、令和 5 年度の事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。また理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。 2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果、令和 5 年度の計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認められる。
令和 6 年 8 月 28 日 小嶋監事 8 月 22 日 久保監事	1) 処遇・法人監査の結果、法人運営並びに利用者サービス、その他施設運営について、適正に業務が執行されているものと認められる。 2) 会計監査の結果、令和 6 年度第 1 四半期の各事業部の財務計算書類及び各種帳簿は正しく表示され、適正に執行されているものと認められる。
令和 6 年 11 月 27 日 小嶋監事 11 月 25 日 久保監事	1) 処遇・法人監査の結果、法人運営並びに利用者サービス、その他施設運営について、適正に業務が執行されているものと認められる。 2) 会計監査の結果、令和 6 年度第 2 四半期の各事業部の財務計算書類及び各種帳簿は正しく表示され、適正に執行されているものと認められる。
令和 7 年 3 月 19 日 小嶋監事 3 月 20 日 久保監事	1) 処遇・法人監査の結果、法人運営並びに利用者サービス、その他施設運営について、適正に業務が執行されているものと認められる。 2) 会計監査の結果、令和 6 年度第 3 四半期の各事業部の財務計算書類及び各種帳簿は正しく表示され、適正に執行されているものと認められる。

2. 施設・事業所経営

1) 施設・事業所の概要

①愛仁ホーム

設置承認年月	昭和34年 9月12日
事業開始年月	昭和34年 9月21日
施設規模	敷地 10,744.22㎡ 和楽ホーム共用地
	建物 3,239.52㎡ 鉄筋コンクリート造陸屋根葺5階建
	建物 124.09㎡ 陶芸室・ホール
	定員 130名
施設長	赤堀 裕亮

②和楽ホーム

設置承認年月	昭和49年 8月23日
事業開始年月	昭和49年 9月 1日
施設規模	敷地 10,744.22㎡ 愛仁ホーム共用地
	建物 2,123.79㎡ 鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺3階建
	建物 3,081.53㎡ 鉄筋コンクリート造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺5階建
	定員 120名
施設長	宮澤 良浩

③あおぞら

事業開始年月	平成 3年 3月 1日
施設規模	敷地 10,744.22㎡ 愛仁・和楽ホーム共用地
	建物 283.04㎡ 鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺3階建（2階部分）
	定員 9名
所 長	宮澤 良浩

④さざなみ

設置承認年月	昭和55年 1月 1日
事業開始年月	昭和55年 1月 1日
施設規模	敷地 10,744.22㎡ 愛仁・和楽ホーム共用地
	建物 314.35㎡ 鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺3階建（1階部分）
	定員 30名
センター長	岡本 忠行

⑤ひまわり

設置承認年月	平成11年10月 1日
事業開始年月	平成12年 4月 1日
施設規模	敷地 10,744.22㎡ 愛仁・和楽ホーム共用地
	建物 21.17㎡ 鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺3階建（1階部分）
センター長	小島 孝文

2) 統合経営に係る実施事項

①経営会議・業務執行会議

毎月1回経営会議を開催し、施設・事業所の経営に係る事項を審議。全施設・事業所、全部署への重要事項通達を行う。業務執行に重要な審議が必要になった際は、随時業務執行会議を開催し、重要事項を決定する

②防災訓練等実施状況

実施日時	訓練名	重点事項	参加者	実施状況及び反省事項
4月23日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 10 名 愛仁入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・愛仁ホームB棟2階206号室から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・業務中に発報があるので、すぐに駆け付けけるのは難しいが、その際どう動かしかを常に意識しておくこと。
5月14日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 10 名 和楽入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・和楽ホーム東棟4階洗濯場から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・初期消火や2号消火栓で消化不能となり、職員が避難誘導で火点から離れることもあり得るので、あらゆる場面を想定して行動すること。
7月9日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 9 名 愛仁入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・愛仁ホーム1階リネン室から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・ベランダに出た後ガラス扉を開けたままにせず、必ず閉めてから避難すること。
8月13日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 10 名 和楽入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・和楽ホーム中央総合棟1階分電盤室から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・分電盤室はショート等で出火することが考えられる。火災はどんな場所からも発生することを常に意識しておくこと。
9月1日(日) 10:00～11:00	震災時の 総合訓練 BCP 訓練	自衛消防組織の 任務遂行 関係機関等への 情報提供 災害応援協定の 任務遂行	職員 56 名 愛仁入居者 和楽入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・「南海トラフ地震に関する情報」が発令、隊長命令で出火防止の点検指示と緊急防災会議が開催される。その後地震発生との想定で、入居者・利用者の避難誘導、本部への通報訓練を行う。 ・再度防災会議を開催し、この地震によってライフラインがストップしたとの想定で、BCPに沿って各施設でどのような行動をするのかを発表し、検討する。 ・有事の際のライフライン確保について再考が必要。また倉庫の場所、何がどの倉庫に入っているのか等、全職員が理解する必要がある。
10月8日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 10 名 愛仁入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・防災用具の位置確認等、日頃から心掛けて下さい。
11月12日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 9 名 和楽入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・和楽ホーム東棟4階洗濯場から出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・避難誘導に向かう際、通路の真ん中に消火器を置いていた職員がいたので端に置くようにして下さい。防火戸の閉め忘れには注意すること。
12月10日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 10 名 愛仁入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・愛仁ホーム2階キッチンから出火し、火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・ベランダに出た入居者が左右どちらに逃げれば良いか分からず、その場に立っている方が多くいたので職員が左右どちらに避難するのか指示が必要。
3月11日(火) 13:30～14:00	総合訓練 (夜間想定)	職員の任務分担 遂行	職員 9 名 和楽入居者	<ul style="list-style-type: none"> ・和楽ホーム東棟2階勤務室より火災が発生したとの想定で、初期消火、入居者の避難誘導、通報訓練を行う。 ・災害時は何が起るか予想がつかないので、災害用の電話が使えない時にはビッチを使用して連絡する等、臨機応変な行動をすること。

3. ボランティア活動状況

ボランティア	延人員	内 容
俳句クラブ	6 名	金子先生ご指導のもと、俳句作りに励む。季語等、俳句を作る上で適切なアドバイスをいただく（愛仁ホーム）
お茶クラブ （みどり会）	10 名	茶道「表千家」宿谷先生ご指導のもと、お茶室で茶道の心を磨く（愛仁ホーム）
お花クラブ（愛仁）	10 名	高橋先生ご指導のもと、季節の花を取り入れ、それぞれに個性を生かした活け方を楽しむ
生け花クラブ（和楽）	10 名	春日先生ご指導のもと、花に親しみながら、生ける喜びを味わう
書道クラブ（愛仁）	9 名	春日先生ご指導のもと、多くの利用者が参加し、書を楽しむ
書道クラブ（和楽）	11 名	春日先生ご指導のもと、先生のお手本を参考に書を楽しむ
健康体操	23 名	健康運動指導士の塩瀬先生ご指導のもと、音楽に合わせて椅子にすわって出来る体操、タオルを使う体操等で体を動かし、身体機能の維持・向上を図る（愛仁ホーム）
夏体験ボランティア	6 名	夏休みを利用し、小学生 2 名と保護者が来訪し、ラジオ体操カードの作成や、居室周辺の掃除、また入所者とのレクリエーションを行う（愛仁ホーム）
大掃除ボランティア	35 名	12/8 の年末大掃除の際、入居者のご家族、地域の方々、取引業者の方にお手伝い頂く

4. 施設・事業所サービス提供内容

1) 養護老人ホーム 愛仁ホーム

1. 概要

アフターコロナ以降、様々な感染症による生活への影響は薄らいできているように感じるが、第二次トランプ政権発足により期待されていたロシアによるウクライナ侵攻の終息が見えず、また、イスラエルとハマスとの紛争やインドとパキスタン問題など、世界的に混迷が続いている。日本に於いてもそれらの影響から円高や物価高が続き、アメリカとの関税問題など経済的にパニック状態となっており、加えて米不足など、先行きが非常に不安な状態となっている。福祉業界に於いても『2025 年問題』、少子化による人口減少と「団塊の世代の子供」や『2040 年問題』が叫ばれており、更には多職種との賃金格差による離職や担い手不足から、全国的にも非常に厳しい状況となっている。

愛仁ホームでは経営計画書に沿った事業運営を目標としており、令和 6 年度の活動内容などについては概ね計画に沿った形で実施できた。入所者の生活全般については、コロナウイルス感染症の施設内発生が 4・5 月と散発的に、また、2 月には 25 名が感染するクラスターが発生したが、一部の行事・クラブ活動については以前の様な行動制限もなく、生活の質を落とさずサービス提供を行った。施設運営についても令和 5 年 12 月より開始している『契約入所』や定期的な措置元訪問（営業活動）、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 養護分科会の働き掛けによる措置者連絡数の増加により、一時定員を大幅に下回る状況となっていたものをある程度の水準まで取り戻しつつあり、今後も継続して入所者確保を行うことで安定した経営継続を実現していくものである。

2. 運営実績

いわゆる「措置控え」により入所者確保が困難な状況が続く中、一昨年末より東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 養護分科会が中心となり措置の必要性を周知した結果、多い月で 7 名が入所するなど、年間 38 名の入所者確保につながった。しかし死亡や長期療養が必要となったために 20 名が退所されており、1 日の平均入所者数は 109.04 人、稼働率は 83.9%と数値的には予算を大幅に下回る数値となってしまった。入所相談自体は現在も継続していただけており、愛仁ホームの強み（精神疾患や透析など医療依存度が高い方、他施設では困難とされた方の積極的な受け入れや緊急時 24 時間体制での受け入れなど）を最大限に活かし、令和 7 年度は満床を目標に継続した営業活動を行っていくものである。

また、減収の要因となっている入院者数については、常日頃より入所者とコミュニケーションを大切にして微細な変化にも気付けるよう徹底していたが、結果的に入院者数及び入院日数の減少を果たすことができなかった。

(1) 入所者への施設サービス

行事やクラブ・サークル活動について、大幅な変更もなく実施することができた。また、令和 6 年度から開催となった PT（理学療法士）による『いきいき運動教室（集団リハ・個別リハ）』では毎回多くの方が参加され、入所者への健康に対する意識付けと同時に QOL(生活の質)の向上にも繋がっていると思われる。また、外出についても現状制限は設けておらず、久し振りにご家族と共に遠出やご友人と外泊されるなど、皆、生き生きとした笑顔が多く見られた。

1) 行事・クラブ・サークル活動

法人・施設伝統の行事を継承しつつ、日本の四季を感じていただけるよう工夫し、感染対策を密に行い安全に楽しく参加できるよう努めた。

～行事～

① 法人合同行事

月	行事名	参加	月	行事名	参加
5	母の日行事※1	30 名	11	博仁文化祭	46 名
6	父の日行事※2	31 名	12	年末大掃除	41 名
8	早起きラジオ体操※3	延べ 130 名	12	クリスマス会※5	85 名
9	敬老・三合同記念式典※4	13 名	12	年越しの集い	4 名
10	秋季大運動会	53 名	1	新年初顔合わせ	3 名

法人、施設の伝統的な行事を通じて入所者同士、交流を図れるよう感染対策を講じつつ計画し、楽しんでいただいた。母の日行事では小曾木保育園園児との触れ合いを重視し、入所者から園児たちに絵本を園児たちからは一輪挿しのプレゼント交換を行い、満面の笑顔が見られた。他、一部行事についてはクラスター発生などもあり規模の縮小や事業所毎に行うなど配慮して実施した。尚、内容等については注釈の通りである。

※1・2 中央総合棟にフォトスポットを設置して写真撮影を実施。

※3 愛仁・和楽にてクラスター発生に伴い事業所毎での実施。

※4 感染予防のため賀の祝いの方のみ参列。オンライン配信実施。

※5 和楽利用者コロナ罹患に伴い事業所毎での実施。

② 季節行事

昔懐かしい伝統行事を、四季を感じられるよう雰囲気作りを行い、感染予防に努めながら開催し、風情を味わっていただいた。

月	行事名	参加者	月	行事名	参加者
4	草餅つき	74 名	1	書初め大会	18 名
5	菖蒲湯	全員	1	新春かるた大会	22 名
7	七夕	46 名	1	鏡開き間食会	71 名
9	お月見会	16 名	2	節分会	8 名
12	餅つき大会	65 名	2	針供養	8 名
12	柚子湯	全員	3	雛祭り	※1

※1 新型コロナウイルスクラスター発生のため未実施

③ 月例行事

日々の生活の中にも楽しみのある生活を支援すべく、安心・安全に実施できるよう検討し、感染予防に努めて実施した。

行事名	内容・参加者数など
ショッピングツアー	感染状況を精査し、感染対策を講じ実施した（1・2・3 月以外実施）。延べ 249 名参加。
誕生祝賀会	誕生月にお祝いし、ティータイムとビンゴゲームを楽しむ。
青梅市美化デー	月 1 回、ホーム近隣の清掃を行った。参加は最多 10 名。
ロードショー	毎月 2 回、大画面で上映して楽しむ。参加は最多 27 名。

④ ホーム内喫茶

食堂サロンにて、入所者からのリクエストを吸い上げる形で、注文をいただいてから目の前で作る「手作りかき氷」や昔懐かしい「駄菓子バイキング」など 6 年度は一風変わったメニューで提供した。

月	店名	参加者	月	店名	参加者
5	『つつじ』	78名	10	『駄菓子屋』	79名
8	『ひまわり』	79名	11	『もみじ』	93名

⑤ 日帰り旅行

桜の開花に合わせ「お花見ドライブ」や毎年実施している初詣を実施し、大変好評だった。

行事名	内容	参加者
お花見ドライブ	桜が満開になるタイミングを見計らい実施し、飯能市内を中心にお花見コースをドライブした。	延べ23名
初詣（新町御岳神社）	例年通り、新町御岳神社にて。無病息災を祈念し、真剣な表情でお参りをされていた。	延べ15名

⑥ 彼岸・盆行事

菩提寺である常福寺ご住職による法要と博仁会共同墓地へお墓参りを執り行った。

月	行事名	内容	参加者
7	盂蘭盆会	迎え火・法要・送り火・お墓参り	延べ38名
7	納涼盆踊り大会	生憎の雨のため、中央総合棟にて実施。多くの方が踊りの輪に加わり、皆、生き生きとした表情が見られた。	47名
9	秋季彼岸会	法要・法話・お墓参り・間食会	延べ83名
3	春季彼岸会	法要・お墓参り・間食会	※1

※1 雨のため法要のみ参加。間食（おはぎ）は昼食時に提供した。

⑦ 地域行事

地域盆踊り大会など、備品貸し出しのみで入所者の参加を見送った行事もあったが、地区文化祭については出展だけでなく、今年は久しぶりに見学に出向き、他の方々の作品に感嘆の声が聞かれた。

⑧ その他行事

入所者に普段と違う雰囲気味わって頂けるよう飾りや衣装などに工夫を凝らし、目で見ても楽しめ、味にも満足していただけるよう実施した。

月	行事名	内容	参加者
11	寿司の日	日本医療食の職員による握りたてのお寿司を提供。全国で11月1日は寿司の日と制定されており、この時期は新米が収穫され、魚に脂がのり、一年中で一番美味しくネタが揃う時期であり、新しく入所された方からも大変好評で、完食される方がほとんどだった。	99名

～クラブ・サークル活動～

入所者に体力維持・向上への意識を持っていただけるよう推進し、4月から新たに集団リハビリ・個別指導に重点を置いた理学療法士による「いきいき運動教室」を開設した。また、通常通り外部講師を招致して実施した。

	名称		参加	名称	練習	参加
文科系	俳句	月 1 回	3.0 名	小さな音楽	月 1 回	9.1 名
	愛琴会 (大正琴)	月 1 回	5.2 名	いろは教室 (頭の体操)	月 1 回	20.3 名
	連珠	月 1 回	3.2 名	カナリヤ会 (カラオケ)	月 4 回	15.8 名
	書道	月 1 回	9.7 名			
体育系	健康体操	月 2 回	18.6 名	ゲートボール	月 4 回	3.6 名
	いきいき運動 教室(集団リハ ビリ)	月 2 回	12.7 名	いきいき運動 教室(個別指 導)	月 2 回	5.7 名
	わなげ	週 1 回	7.6 名			

※参加者人員は平均人数で表示

～ふれあい農園～

新型コロナウイルスの影響や入所者の入れ替わりもあったため思うように活動ができず、今年度も田植え以外の主だった活動は行えなかった。地域の方からいただいたミニトマトをプランターにて栽培したが、来年は開園して 16 年目となるため、改めて畑の再興を図り、入所者にも楽しみながら参加していただけることを目標に推進していく。尚、お米作りについては、今年も「ひとめぼれ」の作付けを行い、脱穀後 67.6 kg の収穫量となった。

給食食材(収穫時)	ミニトマト・新米
-----------	----------

(2) 入所者の心身の健康維持・増進と安全・安心対策

① 講習会・講話

今年度は 1 月に齊藤医師による感染症の原因、自己防衛手段、ワクチン接種の重要性などをレクチャーしていただいた。その他の講習会・講話については感染症の発生や各所との調整が付かず実施見送りとなってしまったが、代替として 2 階食堂サロン入り口や各階廊下への資料提示、回覧を回す、全館放送にて周知徹底を図った。尚、次年度については計画に沿った内容で講習会を実施するよう努めていく。

健康・医療・栄養	実施月	内容	備考
	5 月	マスク着用と水分補給について	各階廊下資料展示・回覧
	6 月	熱中症について	各階廊下資料展示・回覧
	8 月	口腔ケアについて	2 階食堂サロン入り口資料展示
	11 月	感染症予防講演会	斎藤医師講演
	2 月	水分の摂り方について	各階廊下資料展示・回覧
	3 月	知っておきたい高齢者と薬	各階廊下資料展示・回覧

② 感染症対策

今年度も微細な情報にも常に反応するよう努め、安心・安全・健康的に生活を送っていただけるよう推進した。啓発活動としては入所者合同懇親会での注意喚起を始めとし、食堂サロン入り口や各階廊下に感染状況や留意点などを掲示し、また、感染予防についても毎日の放送などを通じて周知徹底した。結果的にクラスターは発生してしまったが、インフルエンザやノロウイルスの発生はなく、日々の啓発活動により感染予防に対する入所者への意識付けの浸透が図られた結果となった。尚、今回のクラスターについては 4 階 A 棟でゾーニングをし、対応したが、入所者が増えており、今後満床となった場合の感染対応について早急な検討が必要と思われるため、現在協議中となっている。また、誰もが的確に対応が行えるよう現任研修を徹底し、入所者に安全な環境を提供できるよう努めていく。

③ カウンセリング

集団生活という環境の中、価値観の違いなど入所者間トラブルが度々発生しているが、そういった問題や個人の悩み等を「心のケア」という目標で曜日毎に支援・専門職による定期的な相談日を開設して対応を行った。特に季節の変わり目など、精神疾患をお持ちの方は精神面の不安定さが目立ち、各職と連携した対応を行い、場合によっては入院加療なども視野に入れた支援を行った。また、その他医療的ケアが必要な方にも専門医によるカウンセリングなどを実施し、入所者が長く穏やかにホームでの生活を楽しんでいただけるよう支援した。

④ 介護予防への取り組み

入所者に人気のある健康運動指導士による『健康体操』を月2回実施し、また、毎日午前・午後の2回実施しているラジオ体操を通じて身体機能の維持・向上を支援した。また、今年度よりPTによる『いきいき運動教室』を月2～3回実施しており、全体向けだけでなく個別のリハビリにも焦点を当て、個々に健康への関心を持っていただくと同時に、職員も支援に当たる上での注意点などを理解し、習得することで個人への支援に活かすよう努めた。

⑤ 専門委員会による活動

入所者が生活する上で安全・安心・健康的に暮らしていただけることを目標に、各種の委員会で課題を抽出すると共に解決することを徹底した。

安全対策委員会	日々提出される「気付きメモ」を基に月毎のインシデントレポート集計と分析を行い、リスク軽減を目標とし、未然に防ぐ対応の周知に努めた。
感染症対策委員会	感染症流行状況等情報収集に努めると共に、予防として注意すべき点等の周知徹底に努め、入所者・職員に感染症に対する意識向上を図った。また、有事の際には臨時会議を開き、感染拡大防止に努めた。
身体的拘束等適正化検討委員会	日々の業務に於ける自身でも気が付かない物理的ではない精神的な拘束等、事例に基づいた研修を通じて学び、注意すべき点の周知徹底に努めた。
高齢者虐待防止委員会	今年度より年4回『虐待の芽チェック』を実施し、自他の振り返りを行いながら不適切な事項とは何かを理解し、入所者の尊厳重視並びにサービス向上に努めた。

⑥ 防災への取り組み

毎月1回、夜間想定防災訓練を実施し、消火設備の使用方法や火点を跨がない等具体的な避難誘導の注意点を再確認し、入所者を安全かつスムーズに避難誘導ができるように意識して避難訓練を実施した。また、首都直下型地震を想定した総合防砂訓練を9月1日に実施した。

⑦ 苦情受付・解決状況

1) 苦情解決のための体制

第三者委員を含む法人の苦情受付体制と共に、愛仁ホームにおいては以下のような体制を整えており、寄せられた苦情や意見は真摯に受け止めて、サービスの質の向上に繋げるため取り組んでいる。

- ・愛仁ホーム入所者苦情受付窓口の設置
- ・苦情受付担当者 相談員、苦情解決責任者 ホーム長
- ・苦情解決委員会の設置

2) 令和6年度の苦情受付と対応報告

入所者より寄せられた苦情や意見について、第三者委員会を含む法人の苦情受付体制と共に苦情受付窓口を設置して内容を精査し、サービスの質の向上に繋げるよう取り組んだ。今年度は特に「ご意見箱」への投函や定期的な相談日でのお話しはなかったが、散発的な訴えが5件で下記の通りとなっている。

内容	対応・解決
同室者がTV鑑賞時、イヤホンを使わず声を掛けたところ怒られた	直接注意するとトラブルの危険性がある為、職員サイドで注意する旨をお伝えする。その後、同室者自らイヤホンを使用されているとのことで、自然解決となる。
新しい義歯を白のケース、古い義歯を青のケースで保管しているが、夜勤帯に義歯洗浄で預かる際に誤って青いケースを持っていき洗浄されていないことがある	本人より古い義歯は使用することがないとのことで荒井歯科医院により廃棄していただき、その後義歯洗浄忘れはないとのこと。
洗濯せずに長期間同じ衣服を着用している入所者がいる為、エレベーターで同乗すると臭気が酷い	対象入所者へ苦情が出ていることをお話しすると自分では臭気が分かっておらず、洗濯がうまく出来ないとのことで、入浴日に毎回衣服とタオルを職員が洗濯するようにした為、以降は同様の訴え聞かれず。
トイレ等に設置されている共用のペーパータオルやトイレットペーパーを大量に持ち帰って私物化している利用者がいる	共用スペースに設置されているものは持ち帰らないように注意し、同様の掲示を行った。
廊下やエレベーター内に痰を吐く、ゴミを捨てる入所者がいる為汚い	入所者合同懇親会にて痰を吐く時は洗面台で行うこと、ゴミはごみ箱へ捨てるように注意した他、エレベーター内にも同様の注意喚起を掲示した。

(3) 業務の効率化・省力化の推進

入所者の高齢化が進み、また「ADL」「認知機能」などが低い状態で入所される方が増えてきており、結果、支援員業務の中で介護業務の比重が高くなり、既存の手順では立ち行かなくなっている。この状況を改善すべく、定期的にミーティングを開催して協議を重ね、入所者に安心・安全な生活を提供できるよう努めている。

① 入所者対応

法人全体での感染症対策強化期間を除き、施設内でのマスク着用は任意とし、クラブ・行事は通常通り実施しており、外出・外泊も所定の届けを出した上で自由に行えるようになった。また、入所者から希望が多く聞かれるショッピングツアーも毎月継続して行っている。入所者合同懇親会は従来通りに行っており、実施後は内容を回覧することにより必要な情報を耳だけでなく目でも得られるようにし、利用者の全体に情報の周知徹底を図った。外部受診についても、各自に感染予防を理解していただき、ご自身で行けるよう支援した。

② 第三者評価の活用

今期の評価機関は、昨年が続いて一般社団法人 特養ホームマネジメント研究所を選定して受審した。入所者については対面での聞き取りを行い、聞き取り対象者以外については職員同様にアンケート記入後郵送し、それらを基に実地調査を行って評価をいただいた。講評では入所者に合わせた運動の機会を設けて健康維持を推進していることが挙げられており、施設サービスに対して高評価をいただけている。また健康管理強化や受診付き添い業務の改善が望ましいとの指摘を受けたため、業務改善の一環並びに本来の養護老人ホームのあるべき姿として支援が必要な方には支援を行い、自立されている方については自立

を促す支援を行うなど、引き続きより良い体制作りを、改善すべき事項については関係部署と検討し、良質なサービス提供に向け取り組んでいく。

(4) 「地域包括ケアシステム」参画をめざしたソーシャルワーク機能の展開

愛仁ホームでは契約入所を開始したことで地域包括支援センターや居宅介護支援事業所へ、和楽ホーム相談員やさざなみセンター長のご協力の下、広報活動を行った。結果的に相談件数は増加しており、入所に繋がったケースもある。引き続き関係各所と連携を取りながら課題解決に向けた活動を継続させ、地域包括ケアシステムにおける大切な拠点として認識していただけるように努めていく。

(5) 予算管理

年間予算計画を基に予算管理に取り組んだ。新規入所者数は昨年より 22 名増の 38 名が入所されたが、その半数に当たる 20 名が退所となっており、目標としていた利益目標に達することができなかった。新規入所の内訳としては契約が 6 名、措置が 32 名となっており、措置者数だけでも昨年を上回る数値となっており、営業活動的には成果を出せており、また、ホームの存在を周知していただけている手ごたえを感じている。半面、加齢に伴う疾病の出現や増悪などのため入院者が増加し、それに伴う退所が多かった。現在も相談件数は多く得られており、次年度も体調不良者の早期発見及び早期治療を徹底して長期入院を減らしていき、新規入所については措置元訪問を通じて施設の有用性を示して入所者確保を目指し、安定した経営を行えるよう努めていく。

(6) 施設改修

築 50 年が経過し老朽化に伴う改修が必要な箇所が多く見られており、大規模改修の実施に向けて調整を行っている。令和 7 年度での改修に向け、引き続き、準備を進めていく。

(7) 職員研修

職員の支援・介護技術のスキルアップを図ることを目標として、法人の中長期経営目標とエビデンス（科学的根拠）に基づき、実地及び動画研修ソフトを使用した研修を通じて各個の均一な知識及び技術の習得に努めた。

1) 新任職員研修

令和 6 年度は 2 名の新規採用があり、以下の新任職員研修プログラムに基づいた研修を行い、業務に必要な基礎知識習得を目的として実施した。

- ① 社会福祉法人と博仁会の理解
- ② 博仁会職員必携にある法人理念と諸規則の知識
- ③ リスクマネジメント～感染症予防・事故防止・身体拘束廃止・虐待防止等の知識
- ④ 防災マニュアルに基づく実技

2) 現任職員研修

特に全職員の統一したサービス提供を目的とし、動画研修を活用し、職員それぞれの専門性の獲得を目標として高齢者支援・介護に関する知識や技術のスキルアップに努めると同時に、業務に活かせる様指導した。令和 7 年度に於いても前年度に得た知識を深め、より良い入所者支援に努めていく。

① 定期研修

研修名	実施月	担当講師
防災研修(防災図上訓練)	毎月	防火管理者(業務係)
防災マニュアル研修	11	防火管理者(業務係)
救急救命研修	11	応急手当普及員
高齢者虐待防止研修	8・2	虐待防止委員会
安全対策研修	7・1	安全対策委員会
感染症予防研修	5・11	感染対策委員会
身体拘束廃止研修	6・1	身体的拘束等適正化委員会
虐待の芽チェック	4・7・10・1	身体的拘束等適正化委員会
ハラスメント	11	チーフ

② 外部個別職員研修

各個人の専門スキル向上を目的として、東京都社会福祉協議会など外部機関が主催する以下の研修を受講した。

研修名	実施月	受講職種
応急手当普及員講習	4	支援員1名
上級救命講習	11・1	支援・相談・看護1名ずつ
安全運転管理者講習会	10	施設長
結核予防講習会	12	支援員1名
養護老人ホーム職員講習会	12・1	支援員2名

③ 等級別研修

今年度は各等級に必要な研修を実施することはできなかったため、外部研修も含め等級に合う受講が行えるよう推進し、職務完遂に努めていく。

(8) 外部介護サービス利用状況

令和6年度

分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	22	23	24	21	20	23	24	22	22	21	23	23
訪問介護	12	13	10	12	11	11	11	10	9	9	12	12
合計	34	36	34	33	31	34	35	32	31	30	35	35

(9) 月別平均入所者の推移状況

令和6年度

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入所者	99人	99人	99人	99人	107人	106人
増減	-31人	-31人	-31人	-31人	-23人	-24人
定員	130人	130人	130人	130人	130人	130人
項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	109人	112人	120人	120人	120人	118人
増減	-21人	-18人	-10人	-10人	-10人	-12人
定員	130人	130人	130人	130人	130人	130人

(10) 入所者状況

令和7年3月31日現在

利用状況	男性：61名 女性：56名 合計 117名 (定員 130名)
年齢構成	最低年齢 60 歳 / 最高年齢 96 歳 / 平均年齢 80 歳 10 ヶ月 男女別：男性 (最低) 66 歳 (最高) 91 歳 平均 78 歳 8 ヶ月 女性 (最低) 60 歳 (最高) 96 歳 平均 83 歳 2 ヶ月
在所年数	平均在所年数 6 年 5 ヶ月 男女別：男性 5 年 9 ヶ月 / 女性 7 年 1 ヶ月
入所経路	居宅：9 名 病院：8 名 老健：5 名 措置替え：10 名 契約入所：6 名 計 38 名
退所状況	死亡：6 名 (男性 2 名 / 女性 4 名) 長期入院：4 名 (男性 2 名 / 女性 2 名) 在宅復帰：1 名 (男性 1 名 / 女性 0 名) 特養入所：5 名 (男性 2 名 / 女性 3 名) 特定施設入所：1 名 (男性 0 名 / 女性 1 名) 措置替え：3 名 (男性 1 名 / 女性 2 名) 計 20 名

2) 介護老人福祉施設・和楽ホーム

1. 概要

今期は、介護保険制度改定の年度となり、新たな加算取得に向けた体制整備や、協力医療機関との連携等、様々な対応に追われる一年となったが、経営を安定させ、入居者の生活を守るための取り組みとして、職員一同が協力し推進したことにより、前年度を上回る増収となった。また、前年度より計画を進めていた大規模改修工事の補助事業の内示を受け、入札を実施するも、資材や燃料費高騰、人材不足などから、不調の結果となり、2回目の入札に向けた準備を東京都の指導を仰ぎながら現在も継続して進めている。

経営計画に掲げた目標稼働率については、12月下旬より2月上旬までに施設内に於いてクラスターが発生し、退居者や入院者が一時的に増加する等により、前年比では1.3%改善させるも、96%の目標に対し、1.5%下回る94.5%の結果となった。

施設サービスについては、生産性向上に向けた取組などにより、限られた職員配置でも入居者との関わりを大切にし、一人一人のより良い生活の創造に力を注いだ。

2. 経営実績

施設経営は様々な外的要因により、依然として厳しい状況が続いている。経営計画書に基づき、安定した経営が維持できるよう、以下の項目について実施した。

1) 目標稼働率の達成

目標稼働率を達成するため、待機者確保に努め、空床期間を最小限にとどめる事、早期発見、早期受診対応により、入院者数を最小限にとどめられるよう努めた。しかしながら、施設内に於ける感染症クラスターの発生により退居者が一定の期間に増加し、新規入居案内が追いつかない事態が発生し、さらに、入院者も一定程度増加した事により、目標の達成には至らず、以下のとおりの結果となった。待機者確保が難しい状況となっているが、来期は目標達成できるよう営業活動に努めてきたい。

①入居待機者確保

待機者数	目標値	実績（平均）
東棟	6名	4.4名
ユニット棟	2名	1.3名

②目標稼働率達成への取り組み

目標項目	東棟		ユニット棟	
	目標	実績	目標	実績
目標稼働率に対する空床数	1,314日以内	1,889日	438日以内	537日
年間延べ入院日数	894日以内	1,218日	340日以内	391日
退居から入居までの空床日数	420日以内	671日	98日以内	146日

2) 予算管理

安定した収入を確保する為、空床数を抑えることに注力し、支出に於いても物価高騰等による影響を受けるも、職員の創意工夫により最小限にとどめた結果、目標稼働率の達成には至らなかったが、新たな加算の取得なども含め、増収となり、2期連続の黒字となった。

【 今年度稼働率実績 】	和楽ホーム 従来型	94.2%
	和楽ホーム ユニット型	95.1%
	ショートステイあおぞら	63.8%

3. 施設サービスの提供

入居者の安心・安全な生活を提供する為、今年度も「入居者の尊厳」を外すことなく、組織全体で取り組みを重ね、質的向上及び負担軽減を目指して以下の項目について取り組んだ。

1) ケアサービス

入居者の意思を尊重することを基本にし、様々なサービスを提供し、入居者の状況に柔軟に対応していくための PDCA サイクルを推進した。

①良質なサービスの効率的な提供の実践

接遇やサービスマナーを踏まえたサービス提供体制については、3 カ月に一度の頻度で「虐待の芽チェック」を実施し、職員会議で現状をフィードバックし、改善に努めた。さらに、的確な情報共有については、ICT を活用した記録により、タイムリーに情報を共有できるようになったが、記録の時間や記録内容における見直しについて未着手となった。また、サービスの標準化の実践については、毎月のフロアミーティングの開催を軸に個々の入居者の状況を踏まえたサービス提供方法を協議するなどし、統一した提供に努めた。

②認知症への対応力強化

今年度は、主軸となる介護職員に「認知症ケアプログラムアドミニストレーター研修」を受講させ、認知症 B P S D の発現防止・早期対応に向けた取り組みの体制整備を実施した。当初計画していた、計画書策定や定期的な評価の実践は未着手となり、具体的な実践は次年度以降に持ち越しとなった。

③生産性向上委員会

今期より生産性向上委員会を立ち上げ、チーフ・リーダーミーティング内で課題の抽出や分析、具体的な改善策の検討と実施について実施した。その中で、

①職員間の申し送り・遂行体制、②内部の情報共有、③ICT 機器の活用、の 3 つに絞り込み取り組みを実施した。

④人材対策・人材確保

日本全体で生産年齢人口が減少する中、介護施設の人材確保は困難を極める状況にある。その中で、今いる人材が最高のパフォーマンスを発揮し、入居者の日々の生活をより良いものにできるよう、毎月のフロアミーティングで、責任感や仕事に対するプロ意識の向上を図った。また、生産性向上を踏まえ新たな見守り支援機器「眠りスキャン」を導入し負担軽減を図った。さらに、特定技能外国人に対する研修機会を確保し、夜間に於ける急変時の対応などの知識、技術の習得に努めた。

2) 生活支援の推進実績（各種行事・クラブ活動）

入居者の「暮らし」に着目し、当施設としてのサービス提供方針に沿って、生活支援を意識したケアサービスを心掛けた。各種行事は、年間をとおして開催方法を法人内で検討し、以下の通り開催した。クラブ活動についても年間をとおし、以下の通り実施した。

<p>【季節行事】 母の日行事・菖蒲湯 七夕・納涼盆踊り大 会・敬老祝賀式 秋季大運動会・文化 祭・クリスマス会 新春書初め大会・節 分会・ひな祭り</p> <p>【施設内定例行事】 誕生祝賀会 アットホームタイム 入居者懇親会</p>	<p>季節行事では、恒例となった「納涼盆踊り大会」や「敬老祝賀式」は全体行事として、数年ぶりにご家族にも参加して戴き、盛大に開催した。その他にも、各種の行事の開催方法を工夫しながら、入居者の生活に彩りを提供できるよう職員と共に工夫し、多くの入居者に四季を感じて戴けるひと時を提供した。</p> <p>毎月の定例行事では、アットホームタイム（ホーム内喫茶）を毎月 2 回開催し、和菓子や洋菓子を入居者の食事形態に合わせて用意し、日常の間食とは違う雰囲気を楽しんで戴ける機会を提供した。その他にも入居者より日常の生活での困りごとや要望を聞く機会として入居者懇親会を開催し、より良い提供に努めた。</p>
<p>【各種クラブ】 書道クラブ 生け花クラブ 手作りクラブ</p>	<p>入居者の趣味・生きがい活動を目的とし、入居者の希望や意思に基づいた上で、参加を促しながら実施した。書道、生け花クラブは春日先生のご指導のもと、入居者の状態に合わせて実施した。手作りクラブは文化祭に合わせて職員と共に制作し、入居者の新たな得意分野を発見できる機会となった。</p>

3) 多職種支援

施設では介護職だけでなく、多職種が協働して入居者の生活を支援しており、それぞれの役割に応じて、以下のとおり取り組みを実施した。

介護支援専門員	入居者の ADL や QOL の維持向上を目指し、様々な取り組みに連動したケアプランを多職種と協働して策定に努めた。また、実施後の検証や見直しを行い、新たな策定につなげるなど、PDCA サイクルに視点を置いた取り組みを実施した。ケアマネジメントサイクルを適切に運用するためにマニュアルの改訂とモニタリングやアセスメントの適切な運用の実践については、次年度に持ち越しとなる。
医療（看護）	入居者の健康管理と共に、多職種が連携し、早期発見と早期対応により入院者減に努めた。また、褥瘡予防に向けた情報発信に努めた。
機能訓練	入居者の健康を維持する上で、必要となる ADL や QOL を維持、向上するため、入居者個々の現状を十分に分析し、計画書の策定に努めた。また、多職種協働で日常生活動作に支障が無いよう、生活環境を整えると共に、日常生活動作訓練をとおり、転倒防止に向けた機能維持、向上に努めた。LIFE のフィードバックによる PDCA サイクルの実践については、十分な情報が得られず、次年度以降に持ち越しとなった。
栄養管理	入居者は低栄養状態に陥るリスクが高いため、口腔内の状態に最新の注意を払い、少しでも長く経口摂取できるよう、適切な食事提供に努めると共に栄養マネジメントに於ける PDCA サイクルを実践した。

4) 歯科医師による口腔衛生管理

今年度より基本サービスに位置づけられ、歯科医師より口腔衛生管理にかかる技術的助言及び指導を年2回行うこととなり、介護職員により口腔の健康状態の評価と共に歯科医師の指導に基づき、入居者の口腔機能の維持・強化を図った。また、昼食時間前の隙間時間に各フロアにて口腔体操を実施するなど、誤嚥性肺炎の防止に向けた取組も実施した。

4. 各種会議、委員会活動（毎月第3水曜日開催）

会議・委員会名	取り組み概要
職員会議	事前に各職より提案や検討事項を募り、会議内に於いて必要に応じて検討する他、経営会議に於ける法人の方針を確認する場として、施設内の改善等につなげた。又、施設長提言事項にて法人の意向を踏まえた施設方針や伝統である礼節やサービスマナーなど、サービスの質の向上に向けた意識付けを図った。
事故防止委員会	エキスパートが作成した月次インシデントレポート集計から全体的に関わる改善事項、注意事項について検討及び確認を行った。又、危険予測訓練は、直近で発生した事例から、起こり得るインシデントを毎月フロア毎に検討し提出を求める等、日頃から危険予測に対する意識向上を図った。委員会の内容は会議録を作成し、全職員に周知を図った。
身体拘束廃止委員会 高齢者虐待防止委員会	3ヶ月に1度、施設内に於ける身体拘束廃止に向けた検討や身体拘束につながるとされる事項について委員会内で協議、決定を行った。また、緊急止むを得ない場合の取扱協議の判断や虐待防止に向け、四半期ごとに実施した「虐待の芽チェックリスト」の集計結果を委員会内で共有し、抑止に向けた啓発を実施した。委員会の内容は会議録を作成し、全職員に周知を図った。
感染症対策委員会	3ヶ月に1度、施設内感染症及び食中毒の予防及びまん延防止の為の対策と併せ、新型コロナウイルス感染症の発生による対応の協議を随時行い、BCP対策についても検討を実施した。委員会の内容は会議録を作成し、全職員に周知を図った。
褥瘡防止委員会	入居者の褥瘡予防対策として、全入居者の褥瘡発症リスク評価を3ヶ月に一度実施し、委員会内でリスクに対する予防策の検討を必要に応じて実施した。委員会の内容は会議録を作成し、全職員に周知を図った。
生産性向上委員会	介護の価値を高めるための業務改善や職場改善を目的とし、限られた資源を有効活用すると共に、業務の効率化を進め、入居者に対する介護サービスの価値や質を高められるよう実施した。

5. 目標管理としてのプロジェクト活動

事業計画目標、業務運営上の課題に着目し、年間の目標を設定し実施した。

プロジェクト名	取り組み概要
経営管理実績プロジェクト	事業を継続するために必須である、経営収支の黒字化を当該年度の目標に掲げ、目標稼働率の達成に向け、稼働率から逆算した空床可能数を、入院及び退居から入居までの空床日数に分け、具体的な年間空床可能数を設定し目標稼働率達成に努めた。 設定した空床可能日数を超えてしまい、目標稼働率を達成することは今期も出来なかった。 しかしながら、新たな加算の取得や稼働率の改善により収入増となり、サービス活動増減差額は黒字となった。

6. 大規模修繕

東京都大規模改修補助事業への協議書を提出し、内示を受け、入札を実施するも、不調に終わり、不調となった原因の洗い出し、対策等を設計業者と協議、取りまとめをし、次年度に実施する2回目の入札に向けた準備を行った。

7. 地域包括ケアシステムへの基盤整備

今年度も、地域の社会資源としての使命を果たすため、地域の方々、地域包括支援センター、地域ボランティアの協力のもと、「認知症カフェ」を開催した。次年度以降に於いても継続して開催をしていきたい。

開催日	内 容
令和6年 8月7日	・理学療法士による手軽にできる健康体操 ・講演「マイナンバーを正しく使えていますか」青梅市市民課 ・介護体験「要介護者になって介護を受けてみる体験コーナー」 ・交流会・カフェタイム
令和7年 3月26日	・第2弾 理学療法士による手軽にできる健康体操 ・講演「認知症を知ろう」博仁会診療所 齊藤医師 ・交流会・カフェタイム

8. ボランティア等の受入再開に向けた推進

今年度も入居者の生活の幅を広げるため、ボランティアを受入し、社会参加の場を提供した。

①クラブ活動のボランティア（書道クラブ・生け花クラブ）

②イベント活動のボランティア（小曾木っ子の会）

※動物セラピーボランティアについては、再開に向けて連携を取るも、日程が合わず、次年度以降の再開予定とした。また、介護等体験については、応募者なく未実施となった。

9. スキルアップ研修

今年度は義務化された研修並びに訓練等を年度内に実施し、職員個々のスキルアップを図ると共に、一つ一つのサービス提供に於けるエビデンスの確認を含め、職員一人一人が研鑽意欲を持ち、新たな発見や再確認へと繋げられる研修を実施した。また、新任職員への基礎的知識、技術習得を目的として研修並びに訓練を実施した。

種別	研 修 名	開催
現任職員研修	【上期】 サービスマナー・接遇 看取り・感染症 褥瘡予防 感染症・災害 BCP リスクマネジメント・認知症 身体拘束廃止・高齢者虐待防止	各研修の計画立案等を施設エキスパートが担当し、研修に合わせて各専門職を講師として行うなど、最新の情報や解釈に基づき講義及び動画教材を活用し研修を実施した。 上半期、下半期共に勤務調整の上、介護、専門職等、全ての職員を対象に実施するも、今期は対面での研修参加者が少なく、未受講者には、研修時に使用したオンライン動画を視聴させ、視聴後に Web 上で確認テストを実施した。
	【下期】 看取り介護 リスクマネジメント 感染症・災害 BCP 研修 認知症 身体拘束廃止・高齢者虐待防止 日常生活観察要綱	
新任職員研修	法人理念の理解・サービスマナー 高齢者の心身の特徴とケア 身体拘束廃止及び高齢者虐待防止 ケアの基礎知識と基礎介護技術 ケアマネジメント・医学知識 事務処理に関する知識 記録に関する知識 ICT 活用について 防災研修	新任職員採用時には、随時、施設エキスパートにより個別必修研修として実施した。 研修期間は個々の状況に合わせ、経験者は 3 日程度、未経験者については 5 日程度実施した。
喀 引 痰 研 吸 修	喀痰吸引研修（第 2 号研修）	夜勤フリーを担う職員を対象とし、計画するも、今年度は未実施となった。

10. BCP 訓練

訓練種別	開催内容
感染症 B C P	施設内に於けるクラスターを想定し、ガウンテクニックや手洗い消毒の訓練を実施した。
災害 B C P	福祉避難所運営「HUG」や災害想定「KIZUKI」を使用したシミュレーション訓練や防災メールを使用した安否確認訓練を実施した。

11. 苦情受付・解決状況

1) 苦情解決のための体制

第三者委員を含む法人の苦情受付体制と共に、当施設では、次により苦情解決のため体制を整えており、寄せられた苦情や意見は真摯に受け止めて、サービスの質の向上に繋げるため取り組んでいる。

- ・和楽ホーム利用者苦情受付窓口の設置
- ・苦情受付担当者 相談員、苦情解決責任者 ホーム長
- ・苦情解決委員会の設置

2) 令和 6 年度の苦情受付件数

和楽ホーム	0 件
あおぞら	0 件

12. 補助事業

厳しい運営状況のもと、物価高騰等への緊急的財政支援や ICT 機器の導入支援について、以下の補助事業等を利用し施設運営の安定を図った。

補助事業名	申請先
特別養護老人ホーム等物価高騰緊急対策支援	東京都
次世代介護機器導入支援事業	東京都

13. 第三者評価受審

本年度も経年比較するため、第三者評価機関として一般社団法人特養ホームマネジメント研究所に依頼し、組織運営、施設サービスの両面より評価を実施した。組織運営並びに施設サービス全体を通し良好な評価を得た。

ショートステイ事業については、利用者調査を実施し、サービスの質の向上、利用ニーズの把握に努めた。

14. 入居者状況

(令和7年3月31日現在)

年齢構成	最低年齢 46 歳 最高年齢 104 歳 平均年齢 85.6 歳 男女別 男 (最低) 46 歳 (最高) 99 歳 平均 82.0 歳 女 (最低) 60 歳 (最高) 104 歳 平均 86.4 歳
在居年数	平均在所年数 男女別 (男) 2 年 3 ヶ月・(女) 3 年 3 ヶ月
入居経路	居宅から 15 人 (42.9%) 病院から 9 人 (25.7%) 他施設から 11 人 (31.4%)
退居状況	自 宅 へ 0 人 0 % (男性 0 人 女性 0 人) 他施設へ 1 人 3.0 % (男性 0 人 女性 1 人) 死 亡 29 人 87.9 % (男性 4 人 女性 25 人) 長期入院 3 人 9.1 % (男性 1 人 女性 2 人)

15. 月別利用実績表

月	開所 日数	登録数			利用者数				一人当りの 報酬(円)
		新 規	廃 止	月 末	実利 用者	延べ 利用者	一日 平均	一日 定員	
4 月	30	4	2	118	115	3,410	113.7	120	411,298
5 月	31	2	1	119	119	3,557	114.7	120	425,648
6 月	30	4	3	120	120	3,458	115.3	120	406,913
7 月	31	1	1	120	120	3,576	115.4	120	416,645
8 月	31	2	3	119	114	3,556	114.7	120	427,464
9 月	30	1	2	118	118	3,391	113.0	120	427,245
10 月	31	4	2	120	120	3,508	113.2	120	403,582
11 月	30	2	3	119	119	3,477	115.9	120	415,542
12 月	31	2	5	116	116	3,539	114.2	120	436,104
1 月	31	7	5	118	118	3,410	110.0	120	411,795
2 月	28	0	5	113	113	3,064	109.4	120	396,341
3 月	31	6	1	118	118	3,428	110.6	120	359,779
合計	365	35	33	1,418	1,410	41,374	1,360	1,440	4,939,357
平均	30.4	2.9	2.8	118.2	117.5	3,447.8	113.3	120	411,613

3) 短期入所生活介護事業・博仁会ショートステイあおぞら

1. 概要

今期の介護保険制度改定により訪問介護事業は大きな打撃を受け、各地で閉鎖が相次いでいる結果となった。在宅生活を支えるサービスとして看過できない状況である。

当事業所は、在宅サービスの一つとして、地域の居宅介護支援事業所等と連携し、緊急受入を含め、ご家族等のレスパイトケアを担う役割として、引き続き事業を運営した。今年度の新規利用契約数は前年比で減少するも、廃止数が最小限抑えられたため、登録者数は前年比で 7.6% 増の結果となった。しかしながら、目標稼働率 70% に対し、年間稼働率は前年比 7% 増の 63.8% の結果となった。今年度末より利用者数が増加してきており、次年度はさらなる稼働率増に向けた取り組みを展開したい。

2. ショートステイの利用促進

当初に目標としていた利用される方々の「生活リズムの整え」「気分や体調の安定」など、在宅生活の延長線上のサービスとして、多くの方に利用されるよう努めた。さらに、生活リハビリの提供や、レスパイトケアを含め、ショートステイ事業としてニーズに応えるサービスの提供に努めた。

3. 利用者状況

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

年齢構成	最低年齢 67 歳 平均年齢 86 歳 男女別 男 (最低) 67 歳 (最高) 98 歳 平均 82 歳 女 (最低) 81 歳 (最高) 94 歳 平均 85 歳
登録状況	登録者数 324 名 新規登録者 37 名 廃止者 11 名
利用状況	実利用者数 238 名 延べ利用者数 2,095 人 一日平均利用者数 5.7 人

4. 月別利用実績表

月	開所 日数	登録数			利用者数				一人当りの 報酬(円)
		新規	廃止	月末	実利用者	延べ利用者	一日平均	一日定員	
4 月	30	3	0	301	15	153	5.1	9	128,897
5 月	31	2	0	303	19	168	5.4	9	148,881
6 月	30	2	2	303	20	172	5.7	9	143,121
7 月	31	4	2	305	17	164	5.3	9	149,267
8 月	31	6	0	311	19	182	5.9	9	139,328
9 月	30	4	1	314	24	178	5.9	9	115,335
10 月	31	3	0	317	24	166	5.4	9	104,269
11 月	30	2	1	318	21	171	5.7	9	125,584
12 月	31	1	0	319	19	171	5.5	9	132,520
1 月	31	4	2	321	21	180	5.8	9	134,268
2 月	28	4	1	324	19	160	5.7	9	127,092
3 月	31	2	2	324	20	230	7.4	9	163,886
合計	365	37	11	3,760	238	2,095	68.8	108	1,612,447
平均	30.4	3.1	0.9	313.3	19.8	174.6	5.7	9	134,371

4) 通所介護事業・博仁会デイサービスセンターさざなみ

1. 概要

4月より、常勤PTを採用し【専門家による機能訓練】をサービスに追加して居宅介護支援事業所に訪問・電話での営業を開始し、6月頃より徐々に新規利用者を獲得。病院やデイケアのような設備重視ではなく、本人や家族・自宅の環境を考慮した計画とコミュニケーションを重視としたリハビリを展開し、目標には達することはできなかったが、経営数値では黒字を達成、昨年度よりも10名上の新規利用者の獲得、年間延べ利用者数1000件以上を増やすことができた。

新型コロナウイルス感染症は、2月にさざなみ内で発生。職員並びに利用者、またはその家族、担当ケアマネジャーへ連絡を行い健康状態の観察等の対応を行い、感染拡大・まん延防止に努めた。

当事業所の広報誌である「さざなみ通信」、入浴・食事・リハビリなどをピックアップした資料と一緒に送付して、今後も利用に繋がられるよう対応していく。また、今後の通所介護事業が制度として、どのような動向であるかをよく見極め、且つ、地域のニーズを勘案して事業を展開していきたい。

2. 利用者の確保

- 1) 常勤PTを配置し、専門性を活かした集団体操と個別のリハビリを提供することができた。
- 2) 広報誌（さざなみ通信）、入浴・食事・リハビリをピックアップしたプリントを居宅介護支援事業所に定期的に配布または郵送し、営業を行った。
- 3) SNS（Facebook、Instagram など）は、それぞれアカウントの作成はしたもの、活用することができなかった。
- 4) 一日体験利用は環境を整備することができず、実施することができなかった。

目標年間利用延べ件数】6,160人（20名/日）

【実績】5,714人（18.5名/日）

【年間稼働率】61.8%

3. サービス提供

1) さざなみの提供姿勢

①PTによるご利用者の身体機能の維持向上

常勤PTを配置し、利用者の身体機能の維持、向上を目指した生活リハビリを実施すると共に、希望者には個別機能訓練加算を算定し「評価・計画・見直し」を定期的に行い、その方の必要な運動を的確に提供することができた。また、算定しない方でもPTが日常生活動作の維持・向上を目的とし、午前・午後に集団体操を実施して身体を動かす機会を提供した。様々な運動ができること、また飽きがこないようプログラムを月ごとに変更し、効果的な運動方法や身体を動かす事の必要性を広めることで、介護予防に繋ぎ、在宅生活が長く送れるように支援することができた。

②利用者・家族とのコミュニケーションを通じて、介護用品（ベッドシーツ、リハビリパンツなど）の購入・必要なものの助言、自宅での介助方法について相談・情報提供を行った。

2) LIFEに関する加算の算定

科学的介護推進体制加算やADL維持等加算の算定は、営業活動・新規利用者の受け入れ対応を重視したことにより、環境を整備することができなかった。

4. 研修

職員のスキルアップを図る為、定期的な研修・訓練を実施する。

① 現任研修

実施月	研修内容
3 月	接遇・マナー研修
12 月	認知症研修
3 月	虐待・身体拘束研修
10 月	感染症研修
6 月	リスクマネジメント研修
11 月	BCP 感染症研修
8 月	BCP 災害時研修

食中毒研修については、準備ができず未実施となった。

② 訓練

実施月	訓練内容
3 月	BCP 感染症訓練
2 月	BCP 災害時訓練

5. 利用者状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年齢構成	最低年齢 66 歳 最高年齢 99 歳 平均年齢 83.4 歳 男女別 男（最低）66 歳（最高）99 歳 平均 82 歳 女（最低）72 歳（最高）98 歳 平均 84.7 歳
登録状況	登録者数 64 名 新規登録者 37 名 廃止者 35 名
利用状況	実利用者数 630 名 延べ利用者数 5,714 人 一日平均利用者数 18.53 人 一人平均利用回数 9.07 回

6. 令和 6 年度月別利用実績表

月	開所 日数	登録数			利用者数				
		新規	廃止	月末	実利用 者	延べ 利用者	一日 平均	一日 定員	一人当 報酬
4 月	26	2	2	55	47	387	14.9	30	75,234
5 月	27	1	2	54	42	399	14.80	30	85,859
6 月	25	6	3	57	47	428	17.10	30	85,697
7 月	27	5	1	61	51	484	17.90	30	85,017
8 月	27	3	4	60	49	454	16.80	30	77,659
9 月	25	8	0	68	56	498	19.90	30	71,839
10 月	27	1	0	69	56	549	20.30	30	82,539
11 月	26	3	1	71	56	517	19.90	30	84,778
12 月	24	3	3	71	54	501	20.00	30	79,747
1 月	24	2	8	65	57	514	21.40	30	74,284
2 月	24	2	4	63	58	455	19.00	30	66,592
3 月	26	3	2	64	57	528	20.30	30	77,166
合計	308	37	35	758	630	5,714	222.3	360	946,411
平均	25.7	3.08	2.9	63.2	52.5	476.2	18.5	30	78,867

7. 苦情・解決について

1) 苦情解決のための体制

第三者委員を含む法人の苦情受付体制と共に、当施設では、次により苦情解決のため体制を整えており、寄せられた苦情や意見は真摯に受け止めて、サービスの質の向上に繋げるため取り組んでいる。

- ・デイサービスセンターさざなみ利用者苦情受付窓口の設置
- ・苦情受付担当者 相談員、苦情解決責任者 センター長
- ・苦情解決委員会の設置

2) 令和6年度の苦情受付と対応報告

年月日	受付状況	内容	対応・解決
R6.7.25	利用者ご家族より職員へ申出	利用終了前にハルンバッグ内の尿を廃棄して自宅に送迎後、ご家族より事業所に入電があり、ハルンバッグのキャップが閉まっていなかったこと、次回よりご家族が管理する為、尿は廃棄せずに帰宅して欲しい旨の話があった。	キャップの閉め忘れについて、ご家族に謝罪し、今後の対応については、ご家族の要望に基づき、利用時にハルンバッグ内の尿を廃棄しない対応とすることを職員に周知することで承いただく。

5) 居宅介護支援事業・博仁会ケアサポートセンターひまわり

1. 概要

国は地域包括ケアシステムの深化・推進を掲げ、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が中心的役割を担うよう求めているが、昨今では、研修制度や実務の多さから、現場から離れていく介護支援専門員も少なくない現状となっている。

当事業所では、6月に介護支援専門員の増員を図り、地域に貢献できるよう体制を整備し、一時は事業目標であった月平均実績数60件を超え、特定事業所加算の取得により収入増となり着実に事業を推進していたが、11月以降に主任介護支援専門員の相次ぐ退職によって、1月より1名体制での事業運営となった。以上により、今年度の目標である月平均実績数の60件を未達成の結果となった。

2. 事業運営

(1) 地域包括支援センターとの関係構築

主任介護支援専門員として、青梅市ケアマネジャー勉強会におけるファシリテーターや、和楽ホームが開催する『あおぞらカフェ（認知症カフェ）』を通じて地域包括支援センターとの関係を構築することができた。

(2) 利用者支援

利用者が可能な限り在宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者個々の心身の状況や置かれている環境に応じた介護サービスを利用するためのケアプランを作成し、そのプランに基づいて適切なサービスが提供されるよう、事業者や関係機関との連絡・調整を行うことができた。

(3) スキルアップ研修

法人内や行政等が実施する研修に参加し、介護支援専門員としての資質・専門性の向上に努めた。

開催機関	開催月	研修内容
青梅市ケアマネ勉強会	毎月	ケアマネジメントプロセス研修
青梅市主任介護支援専門員連絡会	5月	多様化・複雑化する課題に対応するため、他制度連携のできるケアマネジャーになる
瑞穂町ケアマネ研修会	5月	介護保険制度の理解
青梅市ケアマネジャー連絡会	8月	施設職員・ケアマネとの意見交換会
青梅市ケアマネジャー意見交換会	8月	ヤングケアラーについて考える
日の出町介護支援専門員研修会	9月	認知症対応力向上研修

[法人内研修]

研修名	開催月	研修内容
B C P 訓練	7 月	H U G 訓練 (災害避難所のロールプレイング)
震災時総合訓練	9 月	災害 B C P 訓練
災害 B C P 訓練	2 月	安否確認メールでの被災状況並びに緊急招集の可否確認

3. 利用者状況 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

年齢構成	最低年齢 67 歳	最高年齢 98 歳
	平均年齢 86.0 歳	
	男女別 男 (最低) 67 歳 (最高) 92 歳 平均 83.5 歳 女 (最低) 77 歳 (最高) 98 歳 平均 87.1 歳	
登録状況	登録者数 40 名	

4. 月別利用実績表

月	プラン作成件数		1 件当りの報酬 (円)	
	介護支援	介護予防 (総合事業含む)	介護支援	介護予防 (総合事業含む)
4 月	58	13	13,360	5,851
5 月	56	13	13,172	4,640
6 月	56	15	13,287	5,060
7 月	63	15	13,459	4,640
8 月	66	13	16,987	4,640
9 月	70	21	16,808	5,840
10 月	73	20	16,904	4,955
11 月	72	20	16,967	4,640
12 月	36	6	13,065	4,640
1 月	37	4	13,523	4,640
2 月	37	3	13,366	4,640
3 月	36	2	13,304	4,640
合計	660	145	—	—
年平均	55.0	12.1	14,852	5,009